

# 議論の場に見られる「ね」「よ」「よね」について 日本語母語話者と韓国人学習者との相違

李 善 雅

## 1. はじめに

本稿では、議論の場という意見が対立する場面で使われる「ね」「よ」「よね」のコミュニケーション機能について調べ、これらのコミュニケーション機能を円滑なコミュニケーションの進行という側面と円満な人間関係の維持という側面から考察する。さらに、「ね」「よ」「よね」の運用において日本語母語話者と韓国人学習者との間に何らかの相違点が見られるかについても考察を行う。

## 2. 先行研究と研究方法

### 2-1. 先行研究

まず、「ね」に関する先行研究に記述されている「ね」の機能は、次のように二つに分けられる。

話し手と聞き手の知識のあり方や意向のあり方の同（調和）を示す（大曾1986、陳1987、神尾1989、益岡1991等）。

話し手だけが経験した事実や話し手の考えなど、話し手の内部世界に属する事柄について述べる文に付き、実際には話し手と聞き手が互いの内部世界に同一の情報を持っているとは限らないにもかかわらず、あたかも同一の情報を持っているかのような表現をとることにより、聞き手との連帯感を示す働きを持つ（神尾1989、益岡1991、メイナード1993、宇佐美1997等）。

は「ね」の基本的な機能であり、の「ね」はその基本的な機能を利用して情報の共有を図り、聞き手との一体感や聞き手との連帯感を示す働きを持つ

李 善雅

ている。

次に、「よ」に関する先行研究も次のように二つに分けて考えることが出来る。

話し手と聞き手の知識のあり方の異、意向のあり方の異（対立）を示す（大曾1986、陳1987、益岡1991等）。

その場に関係のある情報で、聞き手は当然知っているがその時点で意識していないことを取りあげて指摘することで、戒めや励ましなどの効果をもたらす（大曾1986、田窪1992、メイナード1993、伊豆原1994等）。

は「よ」の基本的な機能であり、は「あなたは日本人ですよ（メイナード1993）」、「あなたはもう16才よ（伊豆原1994）」の場合のように、戒めの意味を込めたり（メイナード1993:107、伊豆原1994:55）、「君は未成年だよ。結婚なんてまだ早いよ（田窪1992）」の場合のように、既存の知識の再記載により、相手の推論を促し、帰結の正しさを相手の知っている情報により導かせたりする（田窪1992:1100）ときの「よ」である。この「よ」には、次の作例のように相手を励ます効果がある場合もある。「私はあなたの指導教官よ。困ったときには相談にのるのが当然でしょ（作例）」。

しかし、この「よ」は、本稿の対話資料である議論の場の中では現れなかった。

最後に、「よね」に関する先行研究をまとめると次のようになる。

聞き手の持っている情報や知識に配慮しながら、あるいは聞き手側の事柄について聞き手との間に共通の理解・認識があるとして相手の同意・確認を求める（ような）形で話を進める（伊豆原1993）。

話し手が自分の状況（又は一般的な状況）や自分の考えを聞き手に持ちかけ、聞き手を話の中に引き込もうとし、聞き手に話し手と同じ気持ちを共有させようとする（伊豆原1993）。

蓮沼（1995:398）も上記のと同様、「通常の間人であれば必ず備わっているはずの認識能力である「理解力・悟性」に訴えて、相互了解を形成し、その適合を確認する」という確認用法としての「よね」を指摘している。蓮沼（1995）は、「よね」の確認用法だけを扱っているのに対し、伊豆原（1993）は、のような気持ちの共有化も指摘している。

本稿では、上述の先行研究の分類に基づいて、議論の場に現れる「ね」「よ」「よね」のコミュニケーション機能を考察する。

## 2 - 2 . 対話資料

本稿では、20～30歳代の男性大学院生である日本語母語話者（以下、Nと表記）10人と韓国人学習者（以下、Kと表記）10人を対象に、初対面同士のペアをつかって、ディベート形式のロールプレイを用いて収録した会話<sup>注1</sup>を分析対象とする。韓国人学習者の日本語学習歴は、3年以下が1人（K4）、他の9人は最小5年、最大10年8ヶ月である。日本滞在経験は、1年以下が3人（K2、K4、K5）、3年以上が7人（K1、K3、K6、K7、K8、K9、K10）である。

被験者に渡されたロールカードの内容は、次の中の一つである。

表1 ロールカードの内容

トピック1	A：「郷に入っては郷に従え」に賛成（以下、1Aと表記） B：「郷に入っては郷に従え」に反対（以下、1Bと表記）
トピック2	A：大企業より自分のやりたいことができる場所で働きたい（以下、2Aと表記） B：就職するならどちらかという大企業がいい（以下、2Bと表記）
トピック3	A：結婚した女性の社会進出に賛成（以下、3Aと表記） B：結婚した女性の社会進出に反対（以下、3Bと表記）

一回目は、韓国人同士（韓国語で話す）、日本人同士で、二回目は、日本人と韓国人学習者で会話をしてもらった。今回の分析にあたっては、日本語で行われた会話だけを対象とする。

以上の対話資料を調査対象に本稿では、文末に現れるいわゆる終助詞の「ね」「よ」「よね」だけを調査対象とする。文中の切れ目（文節の後）に現れる「ね」や単独で現れる「ね」<sup>注2</sup>は調査対象から外すことにする。

分析対象にする発話は、渡されたトピックの本題に入ってから発話に限る。本題に入る前に行われた自己紹介などの発話は対象外とする。

## 2 - 3 . 研究目的

本稿では、次の3つを明らかにすることを目的とする。

一つ、互いに異なる意見を持っている二人が議論をするという状況の中で、

李 善雅

相手に理解を示す際現れる「ね」「よ」「よね」のコミュニケーション機能。

二つ、自分の立場表明を行う際現れる「ね」「よ」「よね」のコミュニケーション機能。

三つ、日本語母語話者と韓国人学習者の「ね」「よ」「よね」の運用上の違い。

### 3. 調査結果

#### 3-1. 相手に理解を示す際現れる「ね」「よ」「よね」のコミュニケーション機能

議論の場という意見が対立する場面で円満な人間関係を維持しながら会話を進行するには、常に相手への配慮が必要とされる。本節では、自分の意見とは異なる相手の意見に理解を示し、人間関係の調整を行うときに現れる「ね」「よ」「よね」のコミュニケーション機能について考察する。

##### 3-1-1. 日本語母語話者の場合

###### 3-1-1-1. 聞き手との判断の一致を示す「ね」

母語話者の発話には、先行研究で述べた「話し手と聞き手の知識のあり方や意向のあり方の同（調和）を示す」という「ね」の基本的な機能を利用し、聞き手との判断の一致を示すことで、相手に配慮する「ね」が見られる。互いに異なる意見を持っている二人が議論をするという場において、時々このような「ね」を用い、聞き手との判断の一致を示すことは、人間関係の調整とともに円滑なコミュニケーションを助けると考えられる。

#### 例 1

---

K8(3A): 若いうちは 一緒に働いて向こうも向こうなりに その 自己をどういうふう

N8(3B): はい

---

K8: にやっぱり実現していくのか それはもう向こうが決めて ま いるものだと思う

N8: はい

---

K8: んで そういう考えを尊重するべきだと思うんです

---

議論の場に見られる「ね」「よ」「よね」について

N8 :	はい	うんーそうですね	ま	それも
K8 :			まだです	
N8 :	あるんですけど	あと	子供さんはいらっしやらないんですよ	

「働く女性の考えを尊重すべきだ」というK8の意見に対し、N8は「うんーそうですね」を使って、「それはそうである」とK8との判断の一致を示している。

3 - 1 - 1 - 2 . 相手に理解や同意を示す「よ」

(1) 相手に理解を示す「よ」

先行研究の で示した「話し手と聞き手の知識のあり方の異、意向のあり方の異(対立)を示す」場合の「よ」には、自己主張や新情報提供の場合に現れる「よ」があげられている。しかし、本稿の分析場面である議論の場においては、次の例2に見られるN4の「よ」のように、相手に理解を示す働きをする場合もあることを指摘しておきたい。

例2

K1(3B) :	僕は	どっちかといえば	ま	できたらちょっと仕事は辞めて	できれば
N4(3A) :		うん		うん	
K1 :	そういう	家庭に	ちょっと専念して	子育てとか	に専念した方がいい
N4 :		うん		うん	はー子供
K1 :	かなという		えー思ってるんですけど		えー
N4 :		うんー		うんー	そうですね やっぱ あの確か
K1 :					
N4 :	に	そういうふうに思うこともあるんですよ	子供を育てるって言うのは	やっぱり	も
K1 :		あは		はいはい	
N4 :	の	すごく大変だな	って感じるんで	けっこう学級崩壊	とかもあるじゃない
K1 :		えーえー			
N4 :	ですか	だから	ああいう問題っていうのは	やっぱり親が一人一人しっかりと	
K1 :					
N4 :	子供を育てて	いかないと	しっかりした教育をして	いかないと	家庭の教育も大事だと
K1 :					はいはい

N4	思うんで	やっぱりそういう意味ではお母さんがずっとこう面倒をみてる
K1		はい
N4	っていうのが大事だと思うんですよ	でも そういうのって あの時間は確かに
K1	はいはい	うん はいはい
N4		いる時間はとても長く いることができるんですけど そういうの
K1		あー えー
N4	でまたなあなあになってしまうのも	何かあれなんで ね うん 仕事は仕事家
K1	うんうん	はい
N4	庭は家庭で	うん 二人でお父さんお母さんで お互いフォローしあって
K1	えーえー	
N4	うん	もちろん子供と接する時間には そのとき一所懸命いるいる教える
K1		
N4	こと教えるという形で何とかフォローできないのかなって	

例2に見られる「よ」は、話し手と聞き手の知識・意向のあり方の異（対立）を示すという「よ」の基本的な機能を、相手に理解を示すことにうまく逆利用していると思われる。というのは、議論の場という状況から相手であるK1は、N4が自分（K1）とは異なる意見を言うだろうと想定していると考えられる。しかしN4は、そういったK1の想定を覆すような、すなわちK1の想定どおりの反対意見ではなくK1の意見を支持するような発言をしているのである。このように、異が前提とされている場面で同意を示すという対立を「よ」を持って表すことで、相手の意見に十分な理解を示していると思われる。「ね」を用いてもいいところで、わざと「ね」ではなく「よ」が使われたことで、次の効果が考えられる。相手の意見（主張）を支持する事柄に関して、自分もそう思うこともあると理由まで挙げて述べることで、相手に十分な理解を示すことができるという効果である。「子育ての大事さ」「母親の役割の重要性」を自分もよく理解しているということを示すことで、相手の意見に対する理解表示を行っているのである。<sup>注3</sup>「～よ」に続く「でも」で始まる発話を見ると、完全に同意しているのではなく、単に理解を示しているだけであることが分かる。

相手の言ったことに対して、話し手自身もそれについてこれくらいは認識しているということを相手に強くアピールすることで、相手に対しては十分な理解を示すと共に、後述する反対意見はこれらの意見を踏まえての意見であるこ

とをも示すことができる。

この「よ」の前に来る内容は、相手の主張を支持する内容であって、相手にとっては既知の情報である可能性があるということから、先行研究の「その場に関係のある情報で、聞き手は当然知っているがその時点で意識していないことを取りあげて指摘することで、戒めや励ましなどの効果をもたらす」場合の「よ」の一つではないかと上記の分析に異議を唱える人がいるかもしれない。しかし、先行研究の のところでふれた例に見られる「よ」とは、次のような点で異なる。まず、「よ」の直後にくる発話内容との因果関係において異なる。「君は未成年だよ。結婚なんてまだ早いよ（田窪1992）」の例の場合は、前の発話と後の発話との間に「だから」を入れることが出来る。これに関しては、「私はあなたの指導教官よ。困ったときには相談にのるのが当然でしょ（作例）」の例においても同様のことが言える。しかし、例2の場合は、後の発話と「でも」でつながっていて、これを「だから」に変えることは出来ない。すなわち、先行研究であげている例に見られる「よ」は、田窪（1992）が述べているように、既存の知識の再記載により、相手の推論を促し、帰結の正しさを相手の知っている情報により導かせたりする（田窪1992:1100）ためである。しかし、本稿であげている例2の「よ」は、後ろの発話と「でも」でつながっていて、相手の推論を促し、帰結を導かせるものではない。次に、イントネーションにおいても異なる。田窪（1992:1100）は、再記載の「よ」は多少上がり調子であると報告しているが、本稿であげた例に見られる「よ」は下降イントネーションを伴っている。

つまり、例2の「よ」は相手の立場を支持する事柄に付き、その意見に対する理解表示の機能を果たしていると考えられる。

## （2）部分的な同意を示す「よ」

母語話者の発話には、相手の発話の中で話し手が本当に同意できる一部の内容に付く「よ」が見られる。これは、上記の例2の相手に理解を示す「よ」とは違って、自分が同意を示した発話内容を後になって否定することはない。意見が対立する議論の場において、次の例3のように相手の意見に対する部分的な同意を示したり、上記の例2のように相手に理解を示したりすることは、完全な意見の対立を避け、円滑なコミュニケーションを図ることができると考えられる。

李 善雅



例 3

N 6 (3B) :	そうですね	彼女の方は	その	あまし仕事は辞めたくないっていうふう	に言っ
N 5 (3A) :	はい				うん
N 6 :	てるんですけど	え	僕としては	え	何とか こう 住んでるとこも離れてる
N 5 :	はいはい				うん
N 6 :	ものですから	えー	できれば仕事	えー	辞めてほしくないってともあるんです
N 5 :	はい				
N 6 :	けど	ま	何とか辞めてこっちの方に来て	一緒に住んで	っていう方がいいかな
N 5 :	うん		おー		うんうん
N 6 :	とは思っているんですけども				
N 5 :		うんうん	そうですね	やっぱ	うん 離れてるとさび
N 6 :	そうですね		えーえー		
N 5 :	しいですよ	たしかに	だから	そうですね	そういう意味じゃあ
N 6 :		えー	仕事やってると難しいかなとは思んですけど		
N 5 :	れでしょうけど			おおー	

N 5 は N 6 の「離れているので仕事を辞めてこっちに来て一緒に住みたい」という発話内容の中で「離れているより一緒に住みたい」という自分が本当に同意できる内容に対してだけ同意を示している。同意できない「仕事を辞める」については言及していない。

3 - 1 - 1 - 3 . 相手に理解を示し、その確認を求める「よね」

例 4 のように、相手の意見を支持する事実につき、相手をサポートしている。相手との間に共通の理解があることを表し、それに対する確認を相手に求める形をとることで相手に配慮していると思われる。この例に見られる「よね」は、先行研究の「聞き手の持っている情報や知識に配慮しながら、あるいは聞き手側の事柄について聞き手との間に共通の理解・認識があるとして相手の同意・確認を求める(ような)形で話を進める」という性質を利用していると考えられる。

李 善雅

例 4

N1(3A) : 子供いる人ってたくさんいますよね

K4(3B) : うん でも 大学の先生なら あの 時間を利用

N1 : あーあー けっこう自由に うん

K4 : するのが 便利じゃないですか 自由に 使うから時間を

N1 : うんうん 会社で働いてるのは ちょっと違いますよね

K4 : や 夜勤とか 残業もある

N1 : あー うん

K4 : し 普通の会社なら

3 - 1 - 2 . 韓国人学習者の場合

3 - 1 - 2 - 1 . 聞き手との判断の一致を示す「ね」

韓国人学習者の発話にも、話し手と聞き手の知識のあり方や意向のあり方の同(調和)を示すという「ね」の基本的な機能を利用し、聞き手との判断の一致を示すことで、相手の意見(主張)に理解を示す「ね」が見られる。

例 5

N5(3A) : 自分の彼女っていうか じゃ ね 好きな女性にも あの 同じような

K5(3B) : うん うん

N5 : 機会として あの あの あった方がいいとは僕は思うんですね やっぱ

K5 : あー

N5 : それは彼女にとってもすごくいい刺激になるし ぼく 僕だけじゃなくて同じよう

K5 : あー

N5 : にいろんな人と (省略) いろんな場面 あるとは思うんですけど うん

K5 : (省略) それは あの

N5 :

K5 : はい ま やっぱり あの 長所というか そういうぶんはあると思いますけどね

N5 : だから うんうん うん

K5 : あるとおもいますね でも やっぱり あの 女性の身分というか

「女性にも男性と同様に社会に出ているんな経験をした方がいい」というN5

に対し、K5は「(確かに専業主婦に比べ)社会に出て仕事をしている女性にはいろんな経験をする機会があるという長所がある」と、N5との判断の一致を示し、相手の意見に理解を示している。意見が対立する議論の場において、相手の意見に理解を示すことは、その場をやわらげる働きがあり、円満な人間関係の維持と円滑なコミュニケーションを助けると考えられる。

### 3 - 1 - 2 - 2 . 部分的な同意を示す「よ」

相手が主張する内容に部分的な同意を示す内容につく「よ」も使われている。これは、互いに異なる意見をたたかわせているという議論の場において、完全な意見対立を避けることができ、円滑なコミュニケーションを助けると考えられる。

#### 例6

N7(3A) : 逆に保育園行くことによっているんな人と ほらね コミュニケーションが  
 K6(3B) : うん

---

N7 : 取れるようになるかもしれん  
 K6 : うん で それですね あのー なんていうかな

---

N7 : うん  
 K6 : やっぱり絶対 こう はたらか 働くのはだめだってことじゃなくて で あ 保  
 N7 : うん うん  
 K6 : 保育園だってですね あのーま 朝から晩までじゃなくて 例えば何時間とか  
 N7 : うん  
 K6 : 午前中だとか そういうふうにして やっぱり こう ある程度 こう 社会の  
 N7 : うん うん  
 K6 : システムを 学んだ方がいいと思いますよ ね それで あの やっぱり こう  
 N7 : うん  
 K6 : せん なんていうんですかね こう えーと パートタイムじゃなくて 本業に  
 N7 : あー  
 K6 : なるというのはやっぱり こう 小学校に入ってから 子供が で 小学校に入っ

「親が仕事している間に子供を保育園に行かせることは子供にとっても勉強になる」というN7の発話に対し、「朝から晩までではなく一日何時間くらいだ

李 善雅

「だったら子供を保育園に行かせてもいい」と条件を付けて、相手が主張する内容に部分的な同意を示している。

### 3 - 1 - 2 - 3 . 相手に理解を示し、その確認を求める「よね」

相手の意見を支持する事柄に付き、相手との間に共通の理解があることを示し、それに対する確認を相手に求める形をとることで相手に配慮していると思われる。意見が対立する議論の場という状況の中で、このような相手との間に共通の理解があるとの指摘は、完全な意見の対立を避け、円滑なコミュニケーションを助けられると思われる。

#### 例7

N7 (3A) :	だけど え	もしずっと仕事続けて	特にプロフェッショナルな	仕事だっ
K6 (3B) :		うん		うん
N7 :	たら (省略)	もうやめるのもったいなくないですか	途中でキャリアを	
K6 :	(省略)			あー
N7 :			うん	うん
K6 :	そうですね	そういうことはあるんですけども	やっぱり こう	社会人
N7 :		えー	うん	
K6 :	っていうか	地球 中でね	生まれてですね	こう 一人の こうプロフェッ
N7 :		うん		うん うん
K6 :	ヨナルな人間として社会に	貢献するのもいいと思うんですよね		それなりに
N7 :		うん	うん	うん
K6 :	でも あの一	子孫をですね	うまく	育てて この 豊かな
N7 :		うん		あー
K6 :	つくるのも		いいと思いますよ	

「女性が家庭や子供のために今までやってきたプロフェッショナルな仕事を辞めるのもったいない」というN7の発話に対し、K6は「一人のプロフェッショナルな人間として社会に貢献するのいいと思う」というふうに、N7との間に共通の理解があることを示し、それに対する確認を相手に求める形をとることで相手に配慮している。

### 3 - 1 - 3 . まとめ

互いに異なる意見を持っている二人が議論をするという状況の中で、相手に理解を示す際現れる「ね」「よ」「よね」のコミュニケーション機能をまとめてみると次のようになる。

意見が対立する議論の場において、「ね」「よ」「よね」を用いて相手の意見に理解を示したり、部分的な同意を示したり、相手との間に共通の理解があることを示したりすることは、完全な意見の対立を避けるとともにその場をやわらげる効果があり、円満な人間関係の維持と円滑なコミュニケーションを助ける。

相手に理解を示す際現れる「ね」「よ」「よね」の機能別の出現状況<sup>注4</sup>から日本語母語話者と韓国人学習者を比較してみると、聞き手との判断の一致を表す「ね」と相手に理解を示し、その確認を求める「よね」の使用においては、日本語母語話者と韓国人学習者の間に相違点は見られなかった。しかし、「よ」においては、日本語母語話者の発話には見られた相手に理解を示す「よ」が韓国人学習者の発話の中では現れなかった。<sup>注5</sup>

### 3 - 2 . 自分の立場表明を行う際現れる「ね」「よ」「よね」のコミュニケーション機能

本節では、意見が対立するという議論の場で自分の立場表明を行うときに、「ね」「よ」「よね」がどのような働きをしているのかについて考察する。

#### 3 - 2 - 1 . 日本語母語話者の場合

##### 3 - 2 - 1 - 1 . 立場表明を助ける「ね」

(1) 同意の確認要求の「ね」

李 善雅

例 8

---

K 4 (3B) : 韓国なら (省略) あの 結婚して年取ると その 母親父親が あの とし 老
N 1 (3A) :

---

K 4 : 人になるんじゃないですか そのとき 面倒を見る 見て 見るので そのとき
N 1 : うん うん

---

K 4 : 一緒に あの 子供も 子供もちょっと見てるとか 協力を 二世
N 1 : あーそうか うんうん うん

---

K 4 : 代が協力する するので うん 韓国でもし女の人が働くと あの 夫の父親
N 1 : うん うん

---

K 4 : あ 母親が ちょっと子供見ますね はい
N 1 : うん あ そうですね じゃ あれですね けっこ

---

K 4 :
N 1 : う 誰かが協力してくれたら 周りの誰かが協力してくれたら やっぱり女性でも
K 4 :
N 1 : 結婚して 仕事と社会 あ 仕事と家庭の仕事を一緒にやっていくってのは 多分
K 4 : うん そうですね
N 1 : できるんでしょうね

---

結婚した女性の社会進出に賛成であるN1は、反対意見をもっているK4の発話の中で「韓国でもし女の人が働くと夫の両親が子どもの面倒を見る」という内容を取り上げ、「結婚した女性でも周りの協力があれば仕事と家庭の両立はできる」ということに関して相手に同意を求める確認を行うことで、自分の主張を裏付けている。

(2) 相手に配慮しながらの立場表明を助ける「ね」

母語話者のデータを見ると話し手の考えや自分の主張を支持する話し手だけが経験した事実、すなわち相手の知らない事柄の提示に「ね」が使われている場合がある。例9に見られる「ね」は、先行研究で述べた「話し手だけが経験した事実や話し手の考えなど、話し手の内部世界に属する事柄について述べる文に付き、実際には話し手と聞き手が互いの内部世界に同一の情報を持っているとは限らないにもかかわらず、あたかも同一の情報を持っているかのような表現をとることにより、聞き手との連帯感を示す働きを持つ」ものであると

考えられる。

例 9

N 6 (3B) :	結婚した後に子供がどうしても	できますから	えーその後に	その仕事と
N 5 (3A) :			はい	うん
N 6 :	ま 育児を	こう 両立させるのが	すごく難しいのかなとは	考えてるんで
N 5 :		うん		うん
N 6 :	えーえー	そうですね	ま 両立できるかどうかっていうのが	一番問題ですね
N 5 :	うん		うん	うん
N 6 :			えーえー	
N 5 :	そうですね	実際 いやいや	それは本当に大変なところでは	ありますよね
N 6 :	えーえー		はい	
N 5 :	ただ	なんか	アメリカ人とか見えますと	僕がちょうど海外にいた時なん
N 6 :			はーはー	はーはー
N 5 :	ですけど	奥さんがアメリカ人の方で	だんなさんが日本人	完全にフィフティ
N 6 :			はーはー	それはすごい
N 5 :	フィフティに家事やるんですね	あれはね		すごいと思いますね
N 6 :			じゃ	仕事もちゃんと二人で
N 5 :	本当にまるっきりフィフティフィフティなんですよ			

例 9 のように、自分だけが経験したことや自分の考えを語る際、「ね」を用いることで自分一人しか分からない情報と考えず、聞き手と情報を共有しようとしている。互いに異なる意見を持っている二人が話し合うという場面において、この種の「ね」の適切な使用は、一方的な立場表明になるのを避けることができ、円満な人間関係の維持に役立つと思われる。今回の資料の中では、このような「ね」が多数見られた。

3 - 2 - 1 - 2 . 立場表明を助ける「よ」

( 1 ) 立場表明文につく「よ」

立場表明文につく「よ」は、その前に来る自分の立場表明をさらにはっきりさせる働きをする。議論の場において、この種の「よ」の適切な使用は、明確な立場表明を助ける。

例10

N 8 (3B) : 子供が ね できちゃったら やっぱりちゃんと奥さんとかにやっぱり

N 7 (3A) : あ そうね

N 8 : 母親と子供は一緒に 父親でもいいかもしれないんですけど どっちかの親が

N 7 : うん うん

N 8 : こう一緒にいて スキンシップっていう感じを やっぱりとった方がいいと思う

N 7 : うん うん

N 8 : んですよ 僕は

N 7 : うん

例10に見られる下降イントネーションを伴う「よ」は、相手と異なる自分の意見の表明につき、はっきりとした自己主張を示している。これは、自分の意志表示を明確にするには効果的であるが、相手配慮という観点から考えるとやや押し強い発話になるということは否めない。<sup>注6</sup> しかし、例11に見られる上昇イントネーションを伴う「よ」には、例10のような押し強い自己主張のニュアンスは感じられず、押し付けがましくなく柔らかい感じがする。<sup>注7</sup> これは、強く主張するはずの断定文の発話を疑問文のピッチパターンを使うことによって、相手への気遣いのある表現に転化している（杉藤1992）表現であると考えられる。

例11

N 1 (3A) : ま あの ご主人が 夫になる人が協力するってことも必要だと思いますけど

K 4 (3B) : はい

N 1 : あと 自分の家族だとか おじいちゃんだとかおばあちゃんだとか もし僕が結婚

K 4 : うん

N 1 : して 奥さんが結婚しても働きたいって言ったら たぶん働いてもいいって言うと思

K 4 :

N 1 : いますよ さんは も 辞めるって

K 4 : うん



(2) 新情報提供の「よ」

自分の主張を支持する事実「よ」をつけて相手に提供することで自己主張につなげている。

例12

---

N8(3B): あ ま そうかもしれないんですけど やっぱり でも 子供が ね  
N7(3A): うん

---

N8: できちゃったら やっぱりちゃんと奥さんとかにやっぱり母親と子供は  
N7: あ そうね

---

N8: 一緒に 父親でもいいかもしれないんですけど どっちかの親が こう  
N7: うん うん

---

N8: 一緒にいて スキンシップっていう感じを やっぱりとった方がいいと  
N7: うん うん

---

N8: 思うんですよ 僕は  
N7: うん そう だけどね どうだろう ま 子供はね 私も両親

---

N8: はい (笑)  
N7: 働いてたんですよ だから何となく育つんじゃないかな という (笑)

---

「どっちかの親が子供と一緒にいた方がいい」という考えのN8とは異なる意見を持っているN7は、「私も両親が働いていた」という自分の主張を支持する相手の知らない事実(情報)を提供することで、「共働きでも子供は育てられる」という自分の主張の裏付けに利用している。

3 - 2 - 1 - 3 . 立場表明を助ける「よね」

(1) 立場表明文につく「よね」

自分の立場を表明する発話に付く「よね」であって、「よ」の自己主張の強い印象を「ね」でカバーしていると思われる。<sup>注8</sup> 例13に見られる「よね」は、先行研究で指摘した「話し手が自分の状況や考えを聞き手に持ちかけ、聞き手を話の中に引き込もうとし、聞き手に話し手と同じ気持ちを共有させようとする」ものであると考えられる。

李 善雅

例13

N5 (3A) : ただ うん なんか 自分の彼女見てると そういうふうになったら 何かう

K5 (3B) :

N5 : ん魅力が薄れていくなっていうか こう もっとね いろんな人と自分がいるん

K5 : うん

N5 : なんと こうやって 今日 さんと こう お会いできたことも 僕にとっては

K5 : うん

N5 : ものすごい財産ですし (省略) 好きな女性にも あの 同じような

K5 : (省略) うん

N5 : 機会として あの あの あった方がいいとは僕は思うんですよね

K5 : あー

立場表明文に「よね」を用いることは、聞き手に話し手と同じ気持ちを共有させようとする「よね」の働きで、相手がすぐに反論しにくくさせる効果があるように思われる。これは、「よね」の次にくる相手の反応を見れば納得できる。日本語母語話者同士の会話において、「よね」を伴う相手の立場表明文に対する反応は、次の三つ（理解を示す、あいづちを打つ、無反応）のどれかであって、「よね」のすぐ後に反論をするような例は見られなかった。

例14 理解を示す

N7 (3A) : あー うん うん

N8 (3B) : 家事とかする 食事は最近作ってないんですけど 昔作ったり

N7 :

N8 : したんですけど そういうの大変だったんで やっぱり こう 得意 得意分野

N7 : うん おー

N8 : じゃないかもしれないんですけど ま 分担して やっていくのが

N7 : 確かに 家帰ってね できるとうれしい

N8 : なんか 合理的かなとは思うんですよね

N7 : 楽なのかな うれしいし うん 働いてる かわいそうだからね

N8 : えーえー (笑)

例15 あいづちを打つ

N 1 (2A) : 何か 大きな組織の中で あの その一構成員としているよりは	
N 2 (2B) :	えーえー
N 1 : あの 例え小さくてもいいから こう一人でやっていきたい 自分のしるを	
N 2 :	うん
N 1 : 持ちたいという人もいると思うんですよね そんなもう考え方じゃないかな	
N 2 :	<u>あー</u>

例16 無反応

N 3 (2A) :	うん	あの一 ま 大企業イコール
N 4 (2B) :	っていう ことも 言えますし	うーん
N 3 : お金を持っているとか 支店があるとかというのも	もちろんイコール	
N 4 :		はい
N 3 : なんですけど それこそ 銀行の例を見てもね 何かのきっかけで撤退と		
N 4 :	はい	うん
N 3 : で なったりとか それがいやなんですよね 僕もね それこそ		
N 4 : うん	はい	

(2) 自分の主張を支持する事実(情報)につく「よね」

この種の「よね」は、話し手自身の主張の根拠を相手も当然知っている形で提示し、その根拠を相手に認めさせる形で持っていくことで、立場表明を助けられると思われる。

例17の「よね」は「生まれてから小学校まで6年間」「6年間休んでから元の仕事に戻るの難しい」など、聞き手との共通の常識に訴えて、「女性は結婚してから仕事も続けた方がいい」ということに関する相互理解を形成し、相手にその確認を求めることで自己主張につなげている。例18の「よね」も同様に「大学の先生とか結婚していて子供いる人もたくさんいる」という聞き手も知っているかと推察される一般的な知識・情報に訴え、「結婚した女性の社会進出に賛成」という自分の主張を裏付けようとしている。議論の場において、この種の「よね」の使用により、自分の主張を支持する事実を相手も知っているものと確認しながら議論を進めることで、一方的な立場表明になるのを避けることができる。これらの「よね」は、先行研究で述べた蓮沼(1995:398)の「通

李 善雅

常の人間であれば必ず備わっているはずの認識能力である「理解力・悟性」に訴えて、相互理解を形成し、その適合を確認する」という「よね」の性質を利用し、話し手自身の主張の裏付けに役立っていると言えよう。

例17

---

K 6 (3B) : 本業になるというのはやっぱり こう 小学校に入ってから 子供が で  
N 7 (3A) : あー

---

K 6 : 小学校に 入ってから もう あの 親がなんで働くかというのを分かる時期ですよ  
N 7 :

---

K 6 : ね そうゆうのだったら  
N 7 : だけど 小学校まで入ると 生まれてから小学校まで6年く  
K 6 : うん  
N 7 : らいですよね もし その ね もし 普通にキャリアつんでて 6年間 仕事と  
K 6 : 戻れないですよ  
N 7 : あれしたら もう 元の仕事には戻れないですよ  
K 6 : うん うん  
N 7 : 今日働く人も少ないし 男の人だけで今絶対足りないですよ  
K 6 : うん  
N 7 : にやっぱり女性の力借りなきゃいけないから 女性の力借りないというよりみんな  
K 6 : うん そうか  
N 7 : で働かないと 今日日本はもう人手不足で どうしようもない そういうとき

例18

---

N 1 (3A) : 僕の時 どうだったのかな 小学校の時までは 母親がいたかな うん やっ  
K 4 (3B) :

---

N 1 : ば 無理かな 子供が小さいときには うん でも大学の先生とかでも 結婚してて  
K 4 :

---

N 1 : 子供いる人ってたくさんいますよね  
K 4 : うん でも 大学の先生なら あの 時間を利用

3 - 2 - 2 . 韓国人学習者の場合

3 - 2 - 2 - 1 . 立場表明を助ける「ね」

( 1 ) 同意の確認要求の「ね」

聞き手も知っていると思われる一般的な知識・情報でありながら話し手自身の主張の裏付けに役立つ事柄に「ね」を付けて提示し、聞き手の同意を求めている場合がある。

例19

K5 (3B) : 女性に対しての あの 仕事というのは家庭の仕事って ま 決めているんじゃない

N5 (3A) :

K5 : ないんですけど 今までの あの ずっと何千年何万年の あの 長い歴史でも

N5 :

K5 : やっぱり女性がちゃんとしている家庭では やっぱりえらい人というか

N5 : うん (笑) (笑)

K5 : え そういう あの ま 人物が生まれ そういうのがけっこうありますね

N5 : うん (笑)

K5 : やっぱり 女性の仕事というのが そういう仕事 男性の仕事はやっぱり

N5 : うん うん

K5 : あの 外で仕事して 汗をかいて 自分の あの 自分がもうけて

N5 : うん うん うん

K5 : それで家庭を養うという ことが男性の仕事というか

N5 : うん うん

K5 は、歴史に残る偉人には献身的な母親の存在があるという聞き手も知っていることと推察される一般的な知識・情報に関して聞き手に同意の確認を求めることで、家庭での子育ては女性の大事な仕事であるという自分の主張を裏付けようとしている。この「ね」には、「あなたもそう思っている」という聞き手の同意を当然とするニュアンスが含まれているように思われる。

( 2 ) 相手に配慮しながらの立場表明を助ける「ね」

話し手の考えや主張を支持する話し手だけが経験した事実、すなわち相手の知らない事柄に「ね」を付けた発話が見られる。実際には話し手と聞き手が互

李 善雅

いに同一の情報を持っているとは限らないにもかかわらず、あたかも共通の情報を持っているかのような表現をとることで聞き手との連帯感を示し、相手に配慮しながら立場表明をするのに効果的であると考えられる。

例20

---

K4(3B):	そうすると	あの 子供が	あの 小学生	終わるまでは	ちょっと辞め
N1(3A):		えー	うん		

---

K4:	て	ほしいです <u>ね</u>	中学生とか高校生くらいなら	あの	仕事やっても
N1:	うんうんうん			うん	

---

K4:	いいけど	小学生までは	小学生までは	あの	いえ 家で 生活する方 あの
N1:	うん				

---

K4:	時間が長いじゃないですか	そのとき	ちょっと	うん	お母さんが	ちちお
N1:		うんうん				

---

K4:	あ	母親が	そばに	何か教えてあげてほしい	です <u>ね</u>
N1:	うん			うん	

---

K4は、「子供が小学校を卒業するまでは仕事をしないでほしい」「母親が子供のそばにいろいろな教えてあげてほしい」という自分の考えを言うのに「ね」を使用している。この「ね」には、一方的な立場表明になるのをさけ、情報の共有化を図り、聞き手との一体感や聞き手との連帯感を示す働きがあり、相手に配慮しながら立場表明をするのに役立っている。

3 - 2 - 2 - 2 . 立場表明を助ける「よ」

(1) 立場表明文につく「よ」

自分の立場表明の発話に付き、自分の主張をさらにはっきりさせる働きをする。互いに異なる意見を持っている二人が議論をするという状況の中で、立場表明文と共に現れる「よ」は、明確な立場表明を助ける。

例21

K8(3A): や でも 一応仕事終わった後は ま 子供の面倒は僕らが見るということは  
N8(3B):

K8: もう約束なんで ま それだけ そう 実践していけば 問題はないと思うんで

N8: はい はい

K8: すよ

N8: (笑)問題ないんですかね(笑) うんーどうなんでしょう

(2)新情報提供の「よ」

自分の主張を支持する事実を言うときに「よ」が使われている。

例22

K6(3B): 最近 えーと がっ 学級崩壊 とかに で そういう そういう

N7(3A): うんうん

K6: ことあるでしょう で 親が あの 自分は一応自分の人生があるから ね

N7: うん うん

K6: あの 自分の こう やりたい 歩みたい ところ ま 道を歩むと

N7: うん うん うん

K6: ま そういった子供は この子はこの子の人生があるとかね そういった無責任

N7: うん

K6: なこと言ってるんですよ ね 昔は あの いま核家族が (省略)

N7: あー うん (省略)

K6: そういった こう 愛情を 失ってしまって ほんとに あの 自分は

N7: うん うん

K6: 何人間かっていうの 分らずに育てられて ほんとに こう 大人になって

N7: うん

K6: あの 受けられた分 愛情を他人にあげるといふ それはちょっと難しいなと

N7: うん

K6: 思いますよ

N7:

「自己中心で無責任な親がいる」という事実の提供は、そのような親に育て

李 善雅

られた子供は人に愛情を与えられるような大人にはなりにくいので、親が家でちゃんと子供の面倒を見る必要があるというK6自身の立場表明を助けていると考えられる。

### 3 - 2 - 2 - 3 . 立場表明を助ける「よね」

#### ( 1 ) 立場表明文につく「よね」

立場表明文につく「よね」は、「よ」の自己主張の強い印象を「ね」でカバーし、押しつけておいてからそれを柔らげて同意を求めたりする働きで、一方的な意志表明になるのを避ける効果があるように思われる。

#### 例23

---

N10(1B) :	うん	うん
K 9 (1A) :	いうことを 自分が理解して	その上に行動したら そんなに 今まで
N10 :	うん	
K 9 :	トラブルいっぱいあったんですけど	そういうトラブルだんだん
N10 :	うん	
K 9 :	なくなったし	で そういうふうに 生活 日本 外国での生活をした方が
N10 :	うん	
K 9 :	ま 有利不利とかそういう言葉はあんまりにもあれなんですけれども	
N10 :		うん なるほどね
K 9 :	やっぱり うん 有利ではないかと思うんですよね	で というのは

---

#### ( 2 ) 自分の主張を支持する事実(情報)につく「よね」

次の例のように、自分の主張を支持する事実につく「よね」が見られる。

#### 例24

---

N 6 (3B) :	もし結婚したら	そうですね	難しいですけど	ま	子供ができたらできれば
K 7 (3A) :					
N 6 :	そっちの方に育児の方に専念してほしいなどは		思ってるんですけど		
K 7 :			あーそうですか		
N 6 :			(笑)		あー
K 7 :	いや あの 私も あの	昔はそういうふうな	考えを持ってましたけど		えーと

---



議論の場に見られる「ね」「よ」「よね」について

---

N6 :	
K7 :	最近になって あの もうちょっと あの 結婚して 10年20年たった夫婦を見
N6 :	えーえー はい
K7 :	ると あの どうしても女性の方は あの 子供に自分の人生を託して
N6 :	はい
K7 :	で 子供が あの 幼いうちはいいんですけど だんだん成長して あの 親離れ
N6 :	あ はい あー
K7 :	をするときには じゃそのお母さんは あ 私の人生は何だったんだとか
N6 :	あー
K7 :	そういうことをよくゆっているそうですよね で そういうことを考えるんだっ
N6 :	うんうん
K7 :	たら やっぱり子供のための人生じゃなくて あの 女性も女性なりの自分
N6 :	あー あー
K7 :	の人生を 歩んでほしいというのがあるけど

---

「子供ができれば育児に専念してほしい」という希望を女性に抱いているN6の発話に対し、K7は「子供が親離れした後、女性はむなしさを感じる場合がある」という自分の主張を支持する事実を相手も知っているものと確認しながら議論を進めることで、「子供のための人生ではなく、自分のための人生を歩んでほしい」という自分の主張を裏付けようとしている。

### 3 - 2 - 3 . まとめ

自分の立場表明を行う際現れる「ね」「よ」「よね」のコミュニケーション機能をまとめてみると次のようになる。

意見が対立する議論の場において、下降イントネーションを伴う「よ」を用いて自分の意見を述べることは、明確な立場表明を助ける。そして、上昇イントネーションを伴う「よ」や「ね」「よね」を用いる意志表示は、一方的な立場表明になるのを避け、相手に配慮しながら押し付けがましくない立場表明を助ける。

自分の立場表明を行う際現れる「ね」「よ」「よね」の機能別の出現状況が

李 善雅

ら日本語母語話者と韓国人学習者を比較してみると、立場表明を助ける「ね」と「よ」の使用においては、日本語母語話者と韓国人学習者の間に相違点は見られなかった。

しかし、立場表明を助ける「よね」の使用においては、多少の違いが見られた。立場表明を助ける「よね」の場合、日本語母語話者は自分の主張を支持する事実を述べる時は勿論、自分の立場表明文にも多く「よね」を用いているのに対し、韓国人学習者は殆ど自分の主張を支持する事実を用い、自分の立場表明文に「よね」を使っている発話は一例しかない。

#### 4. 考察

上述のように、日本語母語話者と韓国人学習者の間には「ね」「よ」「よね」の運用面で多少違いが見られた。前節では、「ね」「よ」「よね」の機能別の出現状況における両者の相違点について述べたが、「よね」に関しては、使用状況の面においても日本語母語話者と韓国人学習者の間に次のような相違点が見られた。

「よね」に関しては、日本語母語話者の場合、対日本人の時は10人全員が、対韓国人学習者の時は9人が使用しているのに対し、韓国人学習者の場合は、4人(K2、K6、K7、K9)しか「よね」を使用していない。次の例25や前述の例19のように、「よね」を使用してもいいところで、韓国人学習者は「ね」を用いる場合が多い。

##### 例25

---

K4(3B): うん あ それは やっぱり お金 的 お金 的 金的には あの 仕事

N1(3A): うん

---

K4: してもいいけど 結婚すると二人だけじゃなくて 子供が 生まれますね

N1: うん うん うん うん

---

K4: 子供は あの 人が必要じゃないんですか

N1: うんうん

---

例25の「結婚すると子供が生まれる」のような通常の間人であれば、知っていると推察される一般的な知識・情報につく「ね」には、「きっとあなたもそ

う思っている」という聞き手の同意を当然とするニュアンスが含まれている。前述の例19においても同様のことが言える。

「ね」も「よね」も聞き手を話の中に引き込み、共有化・一体化意識を持たせようとするものであるが、「ね」は「よね」に比べて聞き手を話し手と同じようにさせようとする共有化・一体化の機能が強い（伊豆原1993:30）。韓国人学習者の場合は、「よね」の使用自体が数少なく、「よね」の使用が可能な箇所では「ね」が用いられることで、聞き手を話し手と同じように感じさせようとする強い意志があるように、話し相手である日本語母語話者に思われる可能性があるかもしれない。

「ね」「よ」「よね」は、その前に来る発話の内容や話し手の発話意図と密接な関わりを持つと考えられる。聞き手との同（調和）を表す内容には「ね」を、聞き手との異（対立）を表す内容には「よ」を使用することで、表現意図をさらにはっきりすることができるとともに、話し手の考えなど話し手の内部世界に属する事柄に「ね」を用い、聞き手との情報の共有化を図ることで、一方的な立場表明になるのを避けることもできるし、聞き手の主張を支持する事柄に「よ」を用い、相手に理解を示すこともできる。また、自己主張や自分の主張を支持する事柄を述べる際、「よ」に「ね」をつけた「よね」という形をとることにより、情報の共有化を図ったり、聞き手に確認を求めながら会話を進行していくことで、相手配慮の効果も期待できる。

このように「ね」「よ」「よね」は、円滑なコミュニケーションを進行するための、また、円満な人間関係を維持するための戦略として、重要な働きをしていると思われる。しかしながら、日本語学習者にとってこれらの適切な使用は容易ではないと考えられる。本稿の調査結果から見ても、日本語母語話者と韓国人学習者の間には「ね」「よ」「よね」の運用において、多少違いが見られた。

今回の調査では、議論の場に見られる「ね」「よ」「よね」を分析したが、他の場面についての考察は、今後の課題としたい。

李 善雅

注

注<sup>1</sup> N 1 から N 8、そして K 1 から K 8 の会話資料は、1999年11月から2000年 2 月の間に収録したものである。N 9 と N10、そして K 9 と K 10 の会話資料は、2001年 7 月に収録したものである。

注<sup>2</sup> 次の例に見られるような文中の切れ目に現れる「ね」や単独で使われた「ね」は対象外にする。

例 文中の切れ目に現れる「ね」

---

N 3 (3A) : ただ 反対に言えばです <u>ね</u>	あの かみさんがです <u>ね</u>	ずっと家にいて	例
K 2 (3B) :	はい		はい
N 3 : えばパワーが有り余ってです <u>ね</u>	家に帰ったら	今日こういうことあって	
K 2 :	あー		そうですね
N 3 : こういうことあって それを聞かされるとかです <u>ね</u>	例えば	その家において	暇で
K 2 :		はい	
N 3 : やることなくて	ね	なんか あの 宗教に染まってしまうたりだとか	変な
K 2 :	はい		あー
N 3 : 習い事始めたりだとか	けっこう <u>ね</u>	いろいろ <u>ね</u>	あると思うんですよ
K 2 :	はい		

---

例 単独で使われた「ね」

---

N 1 (2A) :		うんうんうん	
N 2 (2B) : ある程度安定した職業といいですか		いわゆる大きな	ところに
N 1 :		どっちがいいんでしょうねー	(笑)
N 2 : 就職できれば	の方がいいかなっていう		(笑)
N 1 :	お金も大切だし	何か	仕事もやり甲斐って言うのかなー <u>ね</u>
N 2 : えーえー			えーえー
N 1 : 考えるところです			はい
N 2 :	えー	そうですねー	うーん どうですか? その

---

注<sup>3</sup> 伊豆原 (1993: 110) は、「よ」の機能の一つとして、「話し手が聞き手の (確認の) 発話に対して同意もしくは不同意の意を持ちかけるもの」をあげている。同意の意を持ちかけるということに関しては例 2 の「よ」と共通するところがあるが、伊豆原 (1993) が例文で示しているような聞き手の発話が確認を求める発話であるということに関しては異なる。伊豆原 (1993:111) の例

#### 議論の場に見られる「ね」「よ」「よね」について

アナウンサー：まあ10人にその一人（ええ）子どもたち、生まれたばかりの子どもが死んでいく（死んで・・・）ってのがあたりまえなんですな。

増田：そう、村の人は当たり前ですよ。

アナウンサー：そうするとその健康台帳作って（ええ）一人一人のですね（一人一人ですよ）健康管理をし始めていくときに・・・

さらに、伊豆原（1993）の例は、確かに確認を求める相手の発話に対して本当の同意の意を持ちかける時の「よ」であるが、本稿の対話資料から取り上げた例2の「よ」は、本当に同意しているわけではなく、相手の意見に対して理解を示すために用いられている。

注4 「ね」「よ」「よね」の使用状況の面における日本語母語話者と韓国語学習者との違いについては、「3-1.相手に理解を示すとき」と「3-2.自分の立場表明を行うとき」をあわせて、「4.考察」で述べる。

注5 相手に理解を示す「よ」は、日本語母語話者の場合にもN4のみが使用している。

注6 大曾(1990:45)は、話し手が意志・感情・判断・意見などを強く相手に押しつけようとする気持ちを表す場合の「よ」は、普通下降調が使われると述べている。

注7 上昇調が使われる「よ」には、「押しつける」意味は感じられない(大曾1990:45)。

注8 佐治（2001）は、「よね」には、押しつけておいてからそれを柔らげて同意を求めたりする働きがあることを指摘している。

#### 参考文献

- 伊豆原英子1993a 「「ね」と「よ」再考 「ね」と「よ」のコミュニケーション機能の考察から」『日本語教育』80
- 1993b 「終助詞「よ」「よね」「ね」の総合的考察 「よね」のコミュニケーション機能の考察を軸に」『日本語・日本文化論集』1号名古屋大学留学生センター
- 1994 「終助詞「よ」の使用と使用制限 情報と待遇性のかかわりから「よ」の使用条件を探る」『日本語・日本文化論集』2号名古屋大学留学生センター
- 宇佐美まゆみ1997 「「ね」のコミュニケーション機能とディスコース・ポライトネス」『女性のことば・職場編』ひつじ書房
- 大曾美恵子1986 「「今日はいいい天気ですね。」 「はい、そうです。」」『日本語学』5-9

李 善雅

- 1990 「「でしょう」「よ」とイントネーション」『日本語教育論集』1  
号関西外国語大学留学生別科
- 神尾昭雄1989 「情報のなわ張りの理論と日本語の特徴」『日本文法小事典』大  
修館書店
- 佐治圭三2001 「日本語教育と文法学説」『日本語学』20-3
- 白川博之1992 「終助詞「よ」の機能」『日本語教育』77号
- 杉藤美代子1992 「イントネーションの記号論」『文化言語学 その提言と建設  
』三省堂
- 田窪行則1992 「談話管理の標識について」『文化言語学 その提言と建設 』  
三省堂
- 陳常好1987 「終助詞 話し手と聞き手の認識のギャップをうめるための文接辞  
」『日本語学』6-10明治書店
- 蓮沼昭子1995 「対話における確認行為「だろう」「じゃないか」「よね」の確  
認用法」『複文の研究』下くろしお出版
- 益岡隆志1991 『モダリティの文法』くろしお
- メイナード・K・泉子1993 『会話分析』くろしお出版
- 森山卓郎1989 「コミュニケーションにおける聞き手情報」『日本語のモダリテ  
ィ』くろしお出版

